

2017年1月31日

## 『一般社団法人日本特殊教育学会学術用語集（案）』に関する

### 意見募集（パブリックコメント）について

一般社団法人日本特殊教育学会  
広報委員会  
委員長 高橋 智  
幹事 田部 絢子

一般社団法人日本特殊教育学会では、本学会が網羅すべき特別支援教育の研究領域の整理や共通言語の構築を通して特別支援教育の深化発展を推進するために、『一般社団法人日本特殊教育学会学術用語集（案）』（以下、『学術用語集（案）』）を作成してきました。『学術用語集（案）』の作成の経緯については下記をご参照ください。また、『学術用語集（案）』につきましては、[http://www.jase.or.jp/p\\_comment/style\\_p.html](http://www.jase.or.jp/p_comment/style_p.html)に掲載されております。

※会員専用ページにある閲覧用IDとパスワードが必要です。

さて、下記の要領にて、『学術用語集（案）』の完成に向け、会員の皆様のご意見を募集いたします。お寄せいただいたご意見につきましては、『学術用語集（案）』の完成版作成の参考とさせていただきます。なお、ご意見に対する個別の回答は致しかねますので、あらかじめご了承をお願いいたします。多くの会員皆様のご意見をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

#### 1. 『学術用語集（案）』の作成の経緯

『学術用語集（案）』の刊行は、一般社団法人日本特殊教育学会50周年事業の一つとして、前期理事会（2012年～2016年）において正式に決定したものです。そのために理事会のもとに設置された「用字・用語委員会」（時限付き委員会）の課題は、2年間で『学術用語集（案）』を刊行することでした。

具体的には、①一般社団法人日本特殊教育学会のネクスト50年の最初の作業、②特殊教育・障害児教育から特別支援教育・特別ニーズ教育・インクルーシブ教育への移行期にかなった『学術用語集（案）』の作成（1994年刊行の日本特殊教育学会用字・用語委員会『特殊教育学術用語集（案）』の大規模改訂）、③学会50周年記念事業の日本特殊教育学会訳編（2013）『障害百科事典』全5巻（丸善出版）との併行事業、④将来の『日本特殊教育学会用語辞典（仮）』の可能性も視野に入れた『学術用語集（案）』の刊行等が検討されてきました。

『学術用語集（案）』が編纂されることにより、使用される用語が統一され、共通言語の使用のなかで学術の深化発展に必要な議論が可能となります。文部科学省も関連学会の協力を得て、各学問分野で標準化された学術用語を『学術用語集』として数多く刊行しています。本学会の『学術用語集（案）』編纂の基本方針は、以下の点です。

①国内外の特別支援教育・特別ニーズ教育・インクルーシブ教育の動向をふまえて、特別支援教育の基本用語を幅広く収集する、②同じ意味、同一の事実を示す用語はできるだけ統一する、

③特別支援教育の「学界、行政・実務、実践」において広範に利用される用語集をめざす。

用字・用語委員会では、きわめて複雑な仕事と限られた予算の範囲で作業を効率よく進めるために、10名の委員によるワーキンググループを構成し、検討会を積み重ねながら作業を進めてきました。また、用字・用語委員会委員34名には、メール等で進捗状況を報告し、意見を聴取するという形で進めてきました。

2年間で合計9回のWG委員会を開催し、①日本学術会議協力学術研究団体登録の関連学会誌および専門学術誌掲載論文のキーワードの入力作業（1995年以降）、②特別支援教育関係の事典・辞典・用語集等の入力作業に取り組み、『学術用語集案』編纂のデータベースの作成を行ってきました。さらに特殊教育学・特別支援教育にとって必要な語句および特別支援教育実践に関する用語を追加して、頻繁に使用されている用語を精選しました。

こうして用字・用語委員会WG会議の開催と各自に分担された膨大なデータ入力作業により、2015年3月に11万9600語の「学術用語集積データベース」が出来上がりました。データベースに入力した特別支援教育に係る事典・辞典、学術用語集、学会誌・専門学術誌は76件となりました。

会員への作業の進捗状況と『学術用語集案』作成における意見収集のため、2014年9月の日本特殊教育学会第52回大会（高知大学）において学会企画シンポジウム「『日本特殊教育学会学術用語集（案）』作成の現状と課題—学術用語集の作成からみえてくる特別支援教育研究の動向—」を開催し、用字・用語委員会の用字用語の集積や学術用語集編纂の作業からみえてきた特別支援教育の諸分野の研究動向について学会員とともに検討する機会も設けました。

2015年3月で2年間の時限付委員会の用字・用語委員会は解散となったため、これ以降の作業は用字・用語委員会の委員長・幹事・事務局が担うこととなりました。11万9600語の「学術用語集積データベース」をもとに、2015年4月より1年間をかけて用語の絞り込み、検討作業を行ってきました。用語の絞り込み、検討作業は必ず複数名で行い、1000語の絞り込み・検討作業には平均2時間かかりますので、約12万語の学術用語集積データベースの絞り込み・検討作業には、延べで240時間程度かかる計算となります。また集中度の高い共同作業でもあり、1回3～4時間くらいが限度であり、さらに共同作業の時間確保が困難でありました。

こうした状況下で1年間の作業を継続し、2016年4月23日開催の第23回理事会に『学術用語集（案）』を提案し、理事会の検討を受け、次いで2016年6月24日開催の第24回理事会において最終確認と承認をいただきました。その後、新理事会に移行し、『学術用語集（案）』の所掌も広報委員会に変更になった関係で、『学術用語集（案）』のHP上での公開と会員の皆様への意見募集（パブリックコメント）が少し遅くなりましたが、このたび実施に至りました。

今回のパブリックコメントをふまえて広報委員会が『一般社団法人日本特殊教育学会学術用語集パブリックコメント対応修正案』を作成し、2017年6月の理事会に提案し、承認されれば、『一般社団法人日本特殊教育学会学術用語集』は正式なものとして誕生いたします。

以上のように2012年から5年間にわたり『学術用語集（案）』の編集作業が進められてきましたが、「特殊教育・特別支援教育・特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育」それ自体が総合科学であるため、学術用語は刻々と変化していきます。今後、会員の手によって継続的な検討が加え

られ、「特殊教育・特別支援教育・特別ニーズ教育・インクルーシブ教育」に関わる課題を解決しながら、改訂されていくことが強く求められています。

## 2. 意見募集（パブリックコメント）要領

### （1）意見募集（パブリックコメント）対象

別添：『一般社団法人日本特殊教育学会学術用語集（案）』

### （2）資料入手方法

本学会ウェブサイト内、会員専用ページから閲覧用の ID とパスワードをご確認いただき、パブリックコメント用ページ ([http://www.jase.or.jp/p\\_comment/style\\_p.html](http://www.jase.or.jp/p_comment/style_p.html)) よりご確認ください。

### （3）意見募集（パブリックコメント）期間

2017年1月31日（火）から2017年3月31日（金）まで

### （4）意見の提出先・提出方法

会員番号・所属部会、氏名及び所属、連絡先（電子メールアドレス）を明記の上、次の方法で、ご意見を提出してください。また、提出されるご意見には意見対象部分（用語番号等）を明記してください。なお、電話によるご意見の受付は致しかねますのでご了承願います。

意見提出専用メールによる提出：本学会の会員専用ページに掲載の『学術用語集（案）』を閲覧の上、以下の所定の意見提出様式を使用して、パブリックコメント受付専用アドレス（[board@jase.or.jp](mailto:board@jase.or.jp)）より意見の提出を行ってください。その際、メールの件名は「パブリックコメント意見提出」としてください。

### （5）留意事項

ご氏名については、ご意見の内容とともに公表させていただくことがありますので、ご承知おきください。公表の際に匿名を希望される場合は、ご意見提出時にその旨をお書き添えください。電子メールアドレスは、ご意見の内容に不明な点があった場合等の連絡・確認のために利用いたします。

(意見提出様式)

日本特殊教育学会広報委員会パブリックコメント担当宛

『一般社団法人日本特殊教育学会学術用語集（案）』に対する意見

氏名	(フリガナ)
会員番号 所属部会	会員番号 所属部会
所属	
電子メールアドレス	
ご意見	(対象部分： ) (用語番号： )